

8 県高校新人大会について

4) 新型コロナウイルス感染対策について

令和2年10月16日(金)

広島県高等学校体育連盟バドミントン専門部

競技委員長 池田 晋也

はじめに

今大会の実施に係る新型コロナウイルス感染防止対策としては、『広島県高等学校体育連盟主催大会新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(令和2年8月21日版)』に準じて行います。この別紙においては試合当日の流れで特に昨年度までと違う点について示しております。尚ガイドラインについてはP.4以降に掲載、および県高体連専門部HPに掲載いたします。

1. 学校対抗戦・個人対抗戦共通事項

- 遠征の実施方法について、公共交通機関、貸し切りバス及び自家用車の利用、宿泊については各学校で検討、判断し実施すること。
- 試合中には十分な距離を確保しながらマスクを外してプレーを行うが、試合以外の場面では必ずマスクを着用すること。
- 観覧席へ着席の際は、前後左右で連続しないように間隔を開けて着席すること(座席割当表配布)。
- 開会式・閉会式および表彰式は行わず、朝は開場、受付完了後放送によって諸注意のみを行う。
- 1時間おきに試合を中断して換気を行う。
- 開場後、朝の公式練習は行わず、選手は当日の動きの詳細について放送で指示をするので入場したら所定の位置に着席し、放送があるまで待機すること。
- 開場後、受付時に監督会議資料を配布し、選手変更、棄権等の届け出をする。監督会議は行わない。
- 試合を待つ間は観客席の自身の席で待機すること。フロア出入口で待機をしない。
- 競技フロアへの出入りの度に、出入口で必ず手指の消毒を行うこと。
- 消毒液は本部で準備するが、各校で除菌シートを必ず、消毒液もできる限り持参すること。
- 1時間おきに出入口、階段、トイレなどを中心に館内の消毒を行う。
- 審判台は使用しない。線審にはイスを用意するが、試合の度に消毒を行う。
- 審判用紙への勝者サインは行わない。確認のため主審が勝者の氏名を記入すること。
- 試合中、ペアでの話は対面せず、周りに聞こえない程度の小声で行う。
- 個人の試合に用いる道具(ラケット・シューズ・ウエア等)の貸し借りは禁止とし、本人以外の者が触れることがないようにする。
- コーチングシートには、学校対抗戦では同チームの監督、コーチ、マネージャー、個人戦では同チームの監督、コーチ、個人戦に出場している選手が着席することができる。
- インターバル中の選手へのアドバイスは、選手と対面せず、距離をとって行うこと。
- 氷嚢や飲料は、選手が自分で用意しておき、自分で使用すること。チームメイトおよび顧問、コーチが届けることや、氷嚢を首に当てる行為は行わないこと。
- 声を出しての応援は禁止する。席を移動し、他校の使用している席や通路で応援をしないこと。
- 試合で敗退した選手は手指の消毒をし、自分の試合のスコアシート、バインダー、本部から出されたシャトル、ストップウォッチ等審判用具を本部席まで運び、次の試合の審判用具受け取り、審判を行う。
- 審判を終えた学校は速やかに会場を出ること。

2. 11/7.8 学校対抗戦

①11/7 大会 1 日目（1 回戦～2 回戦まで実施）

- 午前中左山（9 時開場）午後右山（13 時開場）の試合を実施し、体育館内入場者数削減、密を避ける。
- 1 回戦より 2 コート併用して試合を行う。
- チームのベンチは設けず、コーチングシートのみコートの各エンドに 2 席ずつ設置する。選手は自分の試合の順番になったらフロアーに降りてくる。コーチングシートに座るコーチ、マネージャーは、試合前のあいさつには加わらない。
- 開場後、指定の座席に着席。受付完了後、オーダー交換および試合進行についての詳細連絡を放送で行う。
- 監督は受付時に体調記録の用紙を提出後、受け取った 1 回戦のオーダー用紙を速やかに記入しておく。
- オーダー交換は該当の試合番号を放送で呼び出し、オーダー交換所で専門部委員または本部役員が立会いの下監督同士が行う。
- 試合のコール後、各チーム監督、主将及び第 1、第 2 ダブルスの選手のみコートに整列し、審判立会いの下あいさつした後、オーダー・対戦コートの確認を行う。ただし握手は行わない。
- あいさつ後の円陣での声出しは禁止。
- 男子サブアリーナの試合に限り、コート手前側に早い番号のチーム、コート奥側に遅い番号のチームの特設席を設け、対戦の間、チーム関係者全員の着席を認める。
- 全ての試合前に審判計時の下 3 分間の練習を行うことができる。シングルスの場合は相手選手と練習を行う。練習用シャトルは各校持ち寄りとする。
- 勝敗確定後、最初に集合したコートに監督、主将及び勝敗が決まるまで試合を行っていた選手のみ整列し、審判立会いの下あいさつを行う。ただし握手は行わない。
- 敗戦チームは手指の消毒後、自分たちの試合の審判用具を本部席まで運び、次の試合の審判を行う（6 名～8 名必要）
- 勝利チームはコーチングシートの除菌をフロアーに設置の除菌シートで拭いてからフロアーを出る。
- 勝利チーム監督は本部席にて次戦のオーダー用紙を受け取り、記入してオーダー交換に備える。（2 回戦勝利後、2 日目朝に行われる 3 回戦のオーダー用紙を受け取っておくこと）
- 団体の対戦間には最低 15 分の時間を空ける。対戦内ダブルスからシングルの連続して入る試合間は最大 10 分の時間を空ける。
- 右山のチームは、開場の指示があるまでは会場に入ることにはできない。外でのウォーミングアップについては監督の管理の下、周囲の迷惑にならないよう行うこと。開場後受付を行う。
- 敗戦チームは次の試合の審判が終わり次第、着席していた座席を除菌シートで拭いた後、速やかに会場から出ること。チームの集合同じくできるだけ会場外で行うこと。
- 1 日目の最後の試合で敗戦したチームの 2 日目最初の試合での敗者審判は行わない。

②11/8 大会 2 日目（3 回戦～決勝まで実施）

- 試合を行うはじめのコート数は3回戦（各チーム1試合目、ベスト8がけ）、準々決勝は1面、準決勝以降は3面とする。試合の進行状況により最大3面まで開いて行う場合がある。
- 準々決勝以降は全ての試合をメインアリーナで行う。
- チームのベンチは設けず、コーチングシートのみコート各エンドに2席ずつ設置する。選手は自分の試合の順番になったらフロアーに降りてくる。コーチングシートに座るコーチ、マネージャーは、試合前のあいさつには加わらない。
- 開場後、指定の座席に着席。受付完了後、オーダー交換および試合進行についての詳細連絡を放送で行う。
- 監督は昨日受け取った1回戦のオーダー用紙を速やかに記入しておく。
- オーダー交換は該当の試合番号を放送で呼び出し、オーダー交換所で専門部委員または本部役員が立会いの下監督同士が行う。
- 3回戦、準々決勝は試合のコール後、各チーム監督、主将及び第1ダブルスの選手のみコートに整列し、審判立会いの下あいさつした後、オーダー・対戦コートの確認を行う。ただし握手は行わない。
- 3回戦の試合は相互審判で行う。相互審判に次の試合の人が入るなど、スムーズな進行への工夫を行う。
- 全ての試合前に審判計時の下3分間の練習を行うことができる。シングルスの場合は相手選手と練習を行う。練習用シャトルは各校持ち寄りとする。
- 勝敗確定後、最初に集めたコートに監督、主将及び勝敗が決まるまで試合を行っていた選手のみ整列し、審判立会いの下あいさつを行う。ただし握手は行わない。
- 敗戦チームは手指の消毒後、自分たちの試合の審判用具を本部席まで運び、次の試合の審判を行う（4名～6名必要）
- 勝利チームはコーチングシートの除菌をフロアーに設置の除菌シートで拭いてからフロアーを出る。
- 勝利チーム監督は本部席にて次戦のオーダー用紙を受け取り、記入してオーダー交換に備える。
- 団体の対戦間には最低15分の時間を空ける。対戦内ダブルスからシングルの連続して入る試合間は最大10分の時間を空ける。
- 準決勝、3位決定戦、決勝は各チーム監督、主将及び第1、第2ダブルス、第1シングルの選手のみコートに整列し、審判立会いの下あいさつした後、オーダー・対戦コートの確認を行う。ただし握手は行わない。

3. 11/14. 15 個人対抗戦

- 会場に入場でき、コーチングシートに座ることが可能なのは各チーム監督、コーチ、今大会個人戦出場選手のみ（14日までに敗退の選手でも15日日曜日の入場は可能）
- 開場後、指定の座席に着席。受付完了後、試合進行についての詳細連絡を放送で行う。
- 朝の全体での練習は行わず、その日の1試合目の試合前（基本的に1回戦、シード選手は2回戦）に審判計時の下5分間の練習を行うことができる。双方が2試合目以降の試合前練習は行わない。シングルスの場合は相手選手と練習を行う。練習用シャトルは各校持ち寄りとする。
- 審判は敗者審判で行い、ダブルスは4名（主審、線審×2、得点表示）、シングルスは2名（主審兼線審、線審兼得点表示）で行う。人数の都合上、敗戦後、基本的に2試合連続で審判を行っていただくようになる。その日の最初のコール、2回目のコールでは本部より放送でシード選手や試合番号の遠い選手を中心に指名をする。
- 1日目はダブルス全ての試合、シングルの試合番号56（32がけ）まで行う。連続する試合間は最低15分の時間を空ける。